

2022年度事業報告

自 2022年4月 1日
至 2023年3月31日

I. 概況

1. 全体景況

政府発表によれば、2022年度（令和4年度）の我が国の経済は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中、緩やかな持ち直しが続いている。その一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や欧米各国の金融引締め等による世界的な景気後退懸念など、我が国経済を取り巻く環境には厳しさが増している。

政府としては、こうした景気の下振れリスクに先手を打ち、我が国経済を民需主導の持続的な成長経路に乗せていくため、「物価高・円安への対応」、「構造的な賃上げ」、「成長のための投資と改革」を重点分野とする「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」（令和4年10月28日閣議決定。以下「総合経済対策」という。）を策定した。その裏付けとなる令和4年度第2次補正予算等を迅速かつ着実に実行し、万全の経済財政運営を行う。

こうした下で、令和4年度の我が国経済については、実質国内総生産（実質GDP）成長率は1.7%程度、名目国内総生産（名目GDP）成長率は1.8%程度となることが見込まれる。消費者物価（総合）については、エネルギーや食料価格の上昇に伴い、3.0%程度の上昇率になると見込まれる。

（出典：令和5年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度、2023年1月23日閣議決定）

2. 鑄造業界の動向

- （1）鑄造業の2022年の生産金額（ダイカストを除く）は、1兆3,800億円で対前年比5.9%増、一方生産量は392万トンで同2.0%減となり、金額は前年に続いて増加したものの、生産量は再びの減少となった。
- （2）代表業種である銑鉄鑄物の生産金額は、8,374億円、同5.5%増で3年ぶりに8千億円を上回った。生産量は312万トン、同1.7%減となり、金額は前年に続いて増加したものの、生産量は再びの減少となった。鑄鋼は生産金額が1,130億円、同3.1%増、生産量が137千トン、同3.0%増と、金額、重量ともに前年に続き増加した。
- （3）非鉄金属鑄物（ダイカストを除く）は、銅合金鑄物の生産金額が961億円、同12.9%増と前年に続き増加、生産量は59千トン、同1.2%減となり、3年連続で6万トンを下回った。また、アルミニウム鑄物は2,794億円、同6.8%増、生産量は365千トン、同2.5%増と金額は増加したものの重量では減少した。量ともに前年に続いて増加した。この結果、2022年の全生産金額（ダイカストを含む）に占める非鉄鑄物比率は、50.5%となり、7年連続して50%を超えている。

表 1. 鋳造品の生産額推移

単位：億円、()：対前年比%

年	鋳鉄鋳物	鋳 鋼	銅合金	アルミ鋳物	精密鋳造品	ダイカスト
2000	9,055 (102.1)	1,377 (109.7)	700 (99.5)	2,888 (103.2)	471 (117.4)	4,655 (106.3)
2005	9,130 (107.5)	1,434 (117.2)	823 (98.7)	2,791 (107.3)	463 (105.5)	6,000 (108.9)
2010	8,509 (125.7)	1,367 (103.0)	958 (114.1)	2,631 (126.9)	514 (118.4)	5,765 (130.0)
2013	8,276 (97.5)	1,288 (100.6)	877 (91.4)	2,717 (99.0)	519 (102.4)	5,687 (98.0)
2014	8,385 (101.3)	1,200 (93.2)	952 (108.6)	2,821 (103.8)	565 (108.9)	5,874 (103.3)
2015	8,198 (97.8)	1,183 (98.6)	966 (101.5)	2,850 (101.0)	539 (95.4)	5,848 (99.6)
2016	7,489 (91.4)	1,177 (99.5)	894 (92.5)	2,812 (98.7)	483 (89.6)	5,746 (98.3)
2017	7,841 (104.7)	1,331 (113.1)	892 (99.7)	2,968 (105.3)	472 (97.7)	6,103 (106.2)
2018	8,268 (105.4)	1,443 (108.4)	948 (106.3)	3,129 (105.4)	489 (103.6)	6,409 (105.0)
2019	8,026 (97.1)	1,352 (93.7)	885 (93.4)	2,968 (94.9)	450 (92.0)	6,235 (97.3)
2020	6,010 (74.9)	1,217 (90.0)	712 (80.5)	2,356 (79.4)	461 (102.4)	5,245 (84.1)
2021	7,940 (132.1)	1,096 (90.1)	851 (119.5)	2,616 (111.0)	520 (112.8)	6,068 (115.7)
2022	8,374 (105.5)	1,130 (103.1)	961 (112.9)	2,794 (106.8)	541 (104.1)	6,475 (106.7)

注：鋳鉄鋳物には、鋳鉄管、可鍛鋳鉄を含む。

表 2. 鉄鋳物の生産量推移

単位：千トン、()：対前年比%

年	合 計	鋳鉄鋳物	鋳鉄管	可鍛鋳鉄	鋳 鋼
2000	4,941 (104.2)	3,998 (106.2)	580 (91.3)	98 (96.4)	264 (102.6)
2005	5,036 (103.0)	4,299 (104.8)	403 (88.9)	58 (74.8)	277 (107.1)
2010	4,030 (123.9)	3,469 (132.4)	316 (79.1)	39 (104.9)	207 (104.3)
2013	4,053 (97.5)	3,481 (97.0)	344 (104.1)	46 (124.3)	182 (89.7)
2014	4,058 (100.1)	3,482 (100.0)	360 (104.7)	44 (95.7)	172 (94.5)
2015	3,929 (96.8)	3,331 (95.7)	398 (110.6)	43 (97.6)	157 (91.1)
2016	3,736 (95.1)	3,237 (97.1)	310 (77.9)	41 (95.3)	150 (95.6)
2017	3,887 (104.0)	3,434 (106.1)	249 (80.3)	42 (102.4)	162 (107.9)
2018	3,967 (102.1)	3,511 (102.2)	249 (100.0)	40 (95.0)	168 (103.6)
2019	3,745 (94.4)	3,323 (94.6)	231 (92.7)	38 (94.9)	153 (91.2)
2020	3,153 (84.2)	2,768 (83.3)	234 (101.3)	29 (77.6)	122 (79.7)
2021	3,557 (112.8)	3,170 (114.5)	224 (95.7)	30 (103.4)	133 (109.0)
2022	3,488 (98.0)	3,117 (98.3)	205 (91.7)	29 (98.4)	137 (103.0)

表 3. 精密鋳造品・非鉄金属鋳物の生産量推移

単位：トン、()：対前年比%

年	精密鋳造品	銅合金	アルミ鋳物	ダイカスト
2000	7,345 (111.4)	87,093 (105.3)	412,824 (104.6)	833,223 (109.4)
2005	7,380 (97.9)	97,794 (92.7)	412,483 (103.7)	1,064,866 (108.1)
2010	5,899 (136.0)	79,293 (105.3)	386,812 (132.5)	980,850 (129.3)
2013	6,357 (99.4)	73,433 (92.3)	413,804 (98.4)	984,842 (97.9)
2014	6,702 (105.4)	77,113 (105.0)	417,299 (100.8)	1,001,099 (101.6)
2015	5,824 (86.9)	77,884 (101.0)	418,556 (100.3)	977,481 (97.6)
2016	5,441 (93.4)	77,477 (99.4)	423,646 (101.2)	980,413 (100.3)
2017	5,353 (98.4)	75,387 (97.3)	441,837 (104.3)	1,043,558 (106.4)
2018	5,053 (94.4)	74,559 (98.9)	454,069 (102.8)	1,074,522 (103.0)
2019	4,172 (82.6)	70,963 (95.2)	437,339 (96.3)	1,022,064 (95.1)
2020	3,859 (92.5)	57,019 (80.4)	343,652 (78.6)	839,132 (82.1)
2021	4,713 (122.1)	59,585 (104.5)	374,042 (108.8)	925,286 (110.3)
2022	4,261 (90.4)	58,862 (98.8)	364,648 (97.5)	894,291 (96.7)

II. 協会活動の概要

2022 年度は、前年度に引き続き「鑄造産業ビジョン 2017（2017 年 9 月）」が目指すべき姿を実現するためのアクションプランにおいて課題とした「IoT などの新しい技術を取り入れた設備投資とスマートファウンドリーの実現」に向けた検討を行うとともに、前年度からの継続として、①技術開発による商品開発力の向上、②経営基盤強化と健全な取引による事業発展、③同業／異業／地域との積極的な連携による競争力強化、④海外との連携、⑤人材育成の充実、⑥環境・エネルギー対策の強化に基づく事業計画に従って協会事業活動を推進した。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、会員企業が正常な企業活動を運営出来るよう環境整備の支援を行った。

2022 年度の主な事業活動は次のとおり。

1. 新鑄造産業ビジョン 2017 で提唱した IoT 等の推進を図るため、「IoT 推進特別委員会」を 10 名の委員及びアドバイザーで 5 回開催し、オンラインでセミナー（Web 会議システム、IoT LT）を 2 回、工場見学会 1 回を企画・開催した。
2. 世界的な温室効果ガス削減への動きから、我が国においてもカーボンニュートラルに向けた温室効果ガスの削減目標が政府より示されている。鑄造業界においてもこの政府目標の達成のため、温室効果ガス（主に CO₂）削減の講ずべき対策を検討するため、カーボンニュートラル特別委員会及び 3 つの WG を設置し、4 回の委員会及び数度にわたる WG をそれぞれ開催した。
3. 令和 4 年度予算・税制要望として政府、鑄物議連等に対して、①取引慣行適正化の推進、②鉄スクラップ等の原材料・副資材の安定供給、③電力・ガス等のエネルギー価格の抑制、④原子力発電の安全性を確保した早期再稼働を含めた安価で安定的なエネルギー供給、⑤FIT 制度及び FIP 制度における賦課金の抑制、⑥温室効果ガス削減に向けた工程表の提供、支援策の拡充、⑦中小企業・小規模事業者の設備投資を支援する税制措置の延長などを要望した。
4. 「未来志向型の取引慣行に向けて（世耕プラン）」に基づき、素形材産業取引ガイドライン及び自動車産業適正取引ガイドラインの追加改定を要望するとともに、素形材産業適正取引に関する自主行動計画を関係 7 業界団体とともに改定した。また、取引適正化への取組みに関するフォローアップ調査を行い、政府へ報告した。また、取引価格適正化では、エネルギー価格ならびに円安、ウクライナ情勢に伴う物価高騰、労務費上昇等に対し、「健全な取引ならびに安定供給に向けたお願い」を 2022 年（令和 4 年）12 月に会長名文書を発行した。また、下請取引の適正化について（令和 4 年 11 月通達）を周知徹底し、会員企業の取引慣行適正化を支援した。
5. 経営部会市場調査委員会では、四半期毎に実施している景況調査を用いて、原材料、副資材、エネルギー価格、労務費上昇分の転嫁状況を収集・確認し、会員企業へのフィードバックならびに各種会合等において調査結果を報告するとともに、政府や鑄物議連等の要望に反映した。

6. 環境分野では、環境・エネルギー対策としての、CO₂削減に関するアンケートを引き続き実施した。
7. 標準化では、2020 年度に原案作成作業を行った「JIS G 5502 球状黒鉛鋳鉄品」の改正規格が 2022 年 4 月に発行され、「JIS G 5503 球状黒鉛鋳鉄品」の改正規格は、原案作成分科会及び委員会にて原案作成作業を終了し、2022 年 8 月に日本規格協会へ提出した。また、ISO/TC25 国内審議会の活動として第 33 回 ISO/TC25 全体会議に参加した。本全体会議にて、積層造型鋳型に関する ISO/TC261/JG77 の新規 ISO 規格に対する情報共有の活動も追加された。鋳造機械でも ISO/TC306 WG4 の国際会議にリモートにて参加した。
8. 人材育成では、将来の鋳物工場の経営者や工場長の育成を目指す鋳造カレッジは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により Web 講義および地区共通 Web 講義を全国的に一部導入し、関東、関西地区にて開催した。受講生は鋳鉄コース 36 名、銅合金 5 名、軽合金 6 名、合計 47 名（関東鋳鉄・軽合金コースは途中各辞退 1 名）。軽合金インターンシップは 2023 年度に延期となった。なお、関東地区、鋳鋼コース、銅合金・軽合金コースにおいて、2021 年度に新型コロナウイルス感染症の再拡大により繰越となっていたインターンシップを実施した。
9. 若手社員を対象とした新人教育研修プログラム「鋳造入門講座（鋳鉄・アルミニウム鋳物コース）」は、6 月～12 月にかけて対面とオンラインの両形式を取り入れて開講し 49 名が受講し、（自己都合による途中辞退 1 名）本講座の修了生は、2022 年度で累計 664 名となった。
10. 課題解決型専門コースである鋳造カレッジ上級コース「鋳鉄材料・砂型コース」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により Web 講義を一部導入し開講、13 名が受講し、（自己都合による途中辞退 1 名）12 名が修了した。
11. 専門研修としては、現場技術者及び作業者を対象に、鋳造の基礎技術に関する「鋳造技術研修会」を、オンライン講義にて実施。「溶解・築炉」（7 月・2 月）、「造型・品質保証」（7 月）、「方案・欠陥」（8 月・2 月）の延べ 5 日開催し、233 名が受講した。また、「3D-CAD 技能研修会」を 8 月に実施し、14 名が受講した。
12. 地方組織の活性化を推進するため、東海支部、北陸支部、中国四国支部の 3 支部活動を支援して地域活動を展開した。併せて、島根県鋳造関連産業振興協議会との交流を実施した。
13. 5 月に総会に併せて春季大会、10 月に岡山地区で秋季大会を何れも 3 年ぶりに対面にて開催した。また、若手経営者全国大会を 9 月（岡山）と 2 月（東京）にハイブリッド形式にて講演会を開催し、延べ 267 名が参加した。

Ⅲ. 会議に関する事項

1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会 1 回、理事会、正副会長会 5 回、協会役員会 4 回、監事会 1 回をそれぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

(1) 社員総会開催日程

第 10 回社員総会 2022 年 5 月 20 日（金）高輪プリンスホテル

(2) 理事会開催日程

- ① 第 45 回 2022 年 4 月 22 日（金）機械振興会館
- ② 第 46 回 2022 年 5 月 20 日（金）品川プリンスホテル
- ③ 第 47 回 2022 年 10 月 6 日（木）ホテルグランヴィア岡山
- ④ 第 48 回 2023 年 1 月 20 日（金）東京プリンスホテル
- ⑤ 第 49 回 2023 年 3 月 24 日（金）機械振興会館

(3) 正副会長会開催日程

- ① 第 88 回 2022 年 4 月 22 日（金）機械振興会館
- ② 第 89 回 2022 年 7 月 15 日（金）機械振興会館
- ③ 第 90 回 2022 年 9 月 16 日（金）ハイブリッド
- ④ 第 91 回 2022 年 12 月 9 日（金）機械振興会館
- ⑤ 第 92 回 2023 年 3 月 3 日（金）ホテルグランヴィア京都

(4) 協会役員会開催日程

- ① 第 34 回 2022 年 5 月 20 日（金）品川プリンスホテル
- ② 第 35 回 2022 年 10 月 6 日（木）ホテルグランヴィア岡山
- ③ 第 36 回 2023 年 1 月 20 日（月）東京プリンスホテル
- ④ 第 37 回 2023 年 3 月 24 日（金）機械振興会館

(5) 監事会

2022 年 4 月 14 日（木）機械振興会館にて監事会を開催し、2021（令和 3）年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行った。

2. 部会に関する事項

(1) 総務部会

佐藤総務部会長の下に、総務部会を 4 回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営（他の部会に属するものを除く）に関する事項について審議した。

- ① 第 1 回 2022 年 6 月 21 日（火）機械振興会館
- ② 第 2 回 2022 年 9 月 14 日（水）ハイブリッド
- ③ 第 3 回 2022 年 11 月 11 日（金）戸畑鉄工(株) 会議室
- ④ 第 4 回 2023 年 2 月 7 日（火）機械振興会館

(2) 経営部会

武山経営部会長の下に、経営部会を 4 回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討及び会員の企業経営に役立つ情報の提供ならびに行事等の企画・立案について審議した。なお、今年度は、（1）原材料・電力の安定供給（2）取引適正化の推進（①労務費、原材料・副資材・電力ほかインフレ下におけるあらゆる費用の上昇（高騰）分の価格転嫁、②型管理の適正化、③支払条件の適正化）の 2 点 3 項目を重点項目として活動を実施した。

- ① 第 66 回 2022 年 6 月 2 日（木）機械振興会館
- ② 第 67 回 2022 年 9 月 1 日（木）ハイブリッド

③ 第 68 回 2022 年 12 月 5 日（月）機械振興会館

④ 第 69 回 2023 年 2 月 9 日（木）ハイブリッド

また、業界の動向を把握し、統計データ、最近の鋳造業界動向、原材料副資材コスト動向の会員への情報提供を行った。

（3）技術・環境部会

柳澤技術・環境部会長の下に、技術部会を 3 回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討及び委員会運営等に関する事項について審議を行った。また、第 2 回には福島県新白河地区の工場見学会を開催した。

① 第 1 回 2022 年 7 月 13 日（水）Web

② 第 2 回 2022 年 10 月 17 日（月）ハイブリッド

10 月 17 日（月）、18 日（火）新白河地区の工場見学会を開催

訪問先：(株)キャスト、日立 Astemo ハイキャスト(株)

③ 第 3 回 2023 年 2 月 1 日（水）ハイブリッド

（4）国際部会

岡村国際部会長の下に、国際部会を 3 回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。

① 第 1 回 2022 年 6 月 2 日（木）ハイブリッド

② 第 2 回 2022 年 9 月 21 日（水）ハイブリッド

③ 第 3 回 2023 年 1 月 27 日（金）機械振興会館

（5）機材部会

渡辺機材部会長の下に、機材部会を 3 回開催し、機材部会としての活動方針・計画等に関する事項について審議を行った。

① 第 1 回 2022 年 6 月 9 日（木）ハイブリッド

② 第 2 回 2022 年 10 月 11 日（火）ハイブリッド

③ 第 3 回 2023 年 1 月 20 日（金）ハイブリッド

IV. スマートファウンドリー化の推進（鋳造産業ビジョン 2017）

2017 年 9 月に策定した「鋳造産業ビジョン 2017」が目指すあるべき姿を実現するためのアクションプランの課題として、「IoT などの新しい技術を取り入れた設備投資とスマートファウンドリーの実現」を会員の取組みへの提言として掲げた。この課題実現の取組みとして、技術・環境部会及び機材部会では、既存委員会の重点テーマとして、主に技術面から会員企業のスマートファウンドリー化の推進を検討。また、鋳造工場の IoT 化を経営戦略の観点から機動的に推進するため「IoT 推進特別委員会」を 2019 年度から継続して開催し、鋳造 IoT LT（Lightning Talk）及び工場見学会を開催した。

（1）IoT 推進特別委員会

① 第 1 回 2022 年 4 月 11 日（月）Web

② 第 2 回 2022 年 5 月 17 日（火）Web

③ 第 3 回 2022 年 6 月 20 日（月）Web

④ 第 4 回 2022 年 7 月 19 日（火）Web

⑤ 第 5 回 2023 年 1 月 24 日（火）Web

<IoT 推進特別委員会委員>

委員長 藤原 宏嗣（アサゴエ工業(株)）

副委員長 吉野 正弘（ヨシワ工業(株)）

副委員長 若林 誠（(株)キャスト）

委員 塩谷 栄治 (石川可鍛製鉄㈱)
委員 明石 隆史 (㈱明石合銅)
委員 沖 寿之 (㈱木村铸造所)
委員 白江 一 (光洋铸造㈱)
委員 津田 家仁 (五位堂工業㈱)
委員 永森 久之 (錦正工業㈱)
アドバイザー 佐藤 孝造 (佐藤铸工㈱)

(2) セミナー、铸造 IoTLT

- ① 2022 年 8 月 26 日 (金) Web セミナー、IoTLT Vol.6
- ② 2023 年 3 月 29 日 (水) Web セミナー、IoTLT Vol.7

(3) 工場見学会

- ① 2022 年 11 月 16 日 (水) ヨシワ工業㈱

V. カーボンニュートラル達成に向けた取り組み

世界的な温室効果ガス削減への動きから、我が国においてもカーボンニュートラルに向けた温室効果ガスの削減目標が政府より示されている。铸造業界においてもこの政府目標の達成のため、温室効果ガス（主に CO₂）削減の講ずべき対策を検討するカーボンニュートラル特別委員会及び調査・セミナーWG、実施項目検討 WG、モデル工場における省エネルギー実態調査 WG の 3 つの WG を発足し、4 回の委員会及び数度にわたる WG をそれぞれ開催した。

- ① 第 5 回 2022 年 7 月 14 日 (木) ハイブリッド
- ② 第 6 回 2022 年 10 月 13 日 (木) ハイブリッド
- ③ 第 7 回 2022 年 12 月 6 日 (火) 機械振興会館
- ④ 第 8 回 2023 年 3 月 16 日 (木) 機械振興会館

＜カーボンニュートラル特別委員会委員＞※は担当WG

委員長 武山 尚生 (中央可鍛工業㈱)
副委員長 富田 康裕 (㈱富田铸工所 ※実施項目 WG)
副委員長 守田 有道 (富士電機㈱ ※調査 WG)
委員 岡本 実利 (日立金属㈱ (2023/1/4 より) ㈱プロテリアル)
※実施項目 WG)

委員 大野 剛 (新東工業㈱ ※調査 WG)
委員 大矢 正三 (㈱大矢铸造所 ※実施項目 WG)
委員 神戸 洋史 ((公社) 日本铸造工学会 事務局長)
委員 木村 寿利 (㈱木村铸造所 ※実施項目 WG)
委員 塩谷 栄治 (石川可鍛製鉄㈱ ※調査 WG)
委員 清水 一道 ((公社) 日本铸造工学会 会長)
委員 鈴木 敏光 (草野産業㈱ ※実施項目 WG)
委員 高橋 健太郎 (㈱ハイキャスト)
委員 西村 有司 (日本ルツボ㈱ ※調査 WG)
委員 橋本 実 (前橋橋本合金㈱ ※調査 WG)
委員 松林 正樹 (㈱マツバヤシ)
委員 宮坂 誠 (㈱コヤマ ※実施項目 WG)
委員 村田 康博 (㈱ナニワ炉機研究所 ※調査 WG)
委員 吉野 正弘 (ヨシワ工業㈱ ※実施項目 WG)
世話人 岡村 富雄 (アイシン高丘㈱)

- 世話人 柳澤 忠幸 (株IJTT)
 世話人 渡辺 兼三 (太洋マシナリー(株))
- (2) 実態調査・セミナーWG (エネルギー削減委員会と合同開催)
- ① 第1回 2022年 6月29日 (水) ハイブリッド
 - ② 第2回 2022年 9月26日 (月) ハイブリッド
 - ③ 臨時 2022年 11月29日 (火) Web
 - ④ 第3回 2023年 1月25日 (水) Web
 - ⑤ 第4回 2023年 3月10日 (金) ハイブリッド
- (3) 実施項目WG
- ① 第1回 2023年 1月18日 (水) Web
- (4) モデル工場事業検討WG
- ① 第1回 2022年12月26日 (月) Web
 - ② 第2回 2023年 2月 8日 (水) Web
 - ③ 臨時 2023年 2月23日 (木) (株)ハイキャスト
 - ④ 第3回 2023年 3月10日 (金) Web

VI. 事業活動に関する事項

1. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

(1) 2022年度春季大会の開催

5月20日 (金) 春季大会の一連の行事として、品川プリンスホテルにて総会、理事会・協会役員会、協会賞表彰式、懇親会を開催した (懇親会は着席開催 参加者数 86 名)。

(2) 2022年度秋季大会の開催 10月6日 (木) ～ 8日 (土) 於 岡山

①懇親会

10月6日 (木) 参加人数 84 名 (着席形式) ホテルグランヴィア岡山

②講演会

10月7日 (金) 参加人数 92 名 ホテルグランヴィア岡山

演 題	講演者他 (所属)
(1) 「カーボンニュートラル 推進に向けて」(リモート講演) ① 「鋳造業界におけるカーボンニュートラルの課題について」 ② 「設備投資ゼロで行うエネルギーコスト削減」	(公社) 日本鋳造工学会 会長 清水 一道 (国立大学法人室蘭工業大学 教授) (株)テクノ経営総合研究所 コンサルタント 西山 哲司
(2) 機材部会企画 【カーボンニュートラルへの取組 1】 ① 「電気ヒーター取鍋加熱の紹介他、CN 貢献品の提案」 ② 「造型ラインにおける省エネ、省スペース、衝撃レスの搬送方法」	日本ルツボ(株) 取締役営業部長 西村 有司 KANAMORI SYSTEM Inc. 取締役業務部長 金森さやか

③「脱炭素に向けた鋳造業界専用カットワイヤーと保護板リサイクルのご提案」 ④「自硬性砂再生機の省エネ稼働について」 ⑤「DXによる溶解ラインのシミュレーションでお客様に価値ある情報をご提供」	(株)ニッチュー 近藤 貴博 太洋マシナリー(株) 黒崎 裕史 三明機工(株) 営業部長 遠藤 公洋
(3) 技術・環境部会企画 【カーボンニュートラルへの取組2】 ⑥「カーボンニュートラルへの取組みとご提案」 ⑦「キュボラ溶解及び電気炉溶解におけるCNへの取り組み」 【技術開発賞受賞講演】 ・「高剛性、高強度の低炭素球状黒鉛鋳鉄の開発」	新東工業(株) 鋳造事業部 CN・SSF 推進 G GM 大野 剛 マツダ(株) パワートレイン技術部 第2素材技術グループ アシスタントマネージャ 田中 裕一 (株)ナニワ炉機研究所 常務取締役 村田 康博 虹技(株) 北岡 大輔
(4) 経営部会企画 パネルディスカッション 「アフターコロナ・アフターウクライナ～これからをどう生き抜くか」	コーディネータ： 武山 尚生 (中央可鍛工業(株)) パネラー： 若林 誠 (株)キャスト) 秋岡 義典 (株)アキオカ) 丹羽 龍 (丹羽鋳造(株)) 塩野 浩士 (株)シオノ鋳工)

③ 親睦ゴルフ大会

10月8日(土) 参加人数 22名 後楽ゴルフ倶楽部

(3) 若手経営者全国大会

若手経営者委員会が企画・運営する全国大会を夏季・冬季の2回開催した。

①夏季大会(岡山) ハイブリッド

【講演会】2022年9月8日(木) ラヴィール岡山

参加者 132名

演 題	講 演 者 (所 属)
「素形材産業の現状と施策について」	経済産業省 素形材産業室長 沼舘 建
「イノベーションで変えていく、 ものづくりの世界」	(株)イノテック 代表取締役 岡崎 真之
パネルディスカッション 「このままで、良いわけないだろ！ 鋳造業界」	パネリスト 岡崎 真之 (株)イノテック 社長) 吉野 正弘 (委員長 ヨシワ工業(株)) 永森 久之 (副委員長 錦正工業(株)) 塩野 浩士 (委員 (株)シオノ鋳工) 松尾 精三 (委員 (株)ミヤタ) ファシリテーター 原 敏也 (委員・(株)原工業所)

【工場見学会】73 人参加

A コース：(株)イノテック、ナカシマプロペラ(株)

B コース：アサゴエ工業(株)、(株)アキオカ

C コース：クラシキ機工(株)、福山鋳造(株)

②冬季大会（素形材団体との交流会）（ハイブリッド）

【講演会】 2023 年 2 月 17 日（金）品川プリンスホテル（東京）

参加者（事務局含む） 講演会 135 名、懇親会 108 名

演 題	講 演 者 (所 属)
「事業承継・産業計画について」	中小企業庁 事業環境部 財務課 課長補佐 高橋 正樹
「“研究開発型”町工場の挑戦と進化 ～時代や環境に振り回されない絶対 的な価値追及とは～」	由紀ホールディングス(株) 代表取締役社長 大坪 正人
パネルディスカッション 「このままで良いわけないだろ 鋳造業界！ Part II」	パネリスト 大坪 正人 (由紀 HD(株) 社長) 吉野 正弘 (委員長 ヨシワ工業(株)) 塩谷 栄治 (副委員長 石川可鍛製鉄(株)) 永森 久之 (副委員長 錦正工業(株)) 富田 康裕 (前委員長 (株)富田鋳工所)

(4) 安全衛生対策セミナー

労働災害の減少を図るため、「災害未然防止」をテーマにした講義と会員企業による事例発表を行うオンラインセミナーを（一社）日本鑄鍛鋼会、（一社）日本ダイカスト協会及び（一社）日本鍛造協会と合同で開催した。

参加者 48 名（4 団体合計 96 名）

日時：2022 年 12 月 2 日（金）13：00～17：00

場所：Web（（一社）日本鍛造協会）

プログラム

演 題		講 演 者（所 属）
講義		
安全衛生環境研修（リスクマネジメント研修）～ヒューマンエラー防止編～		小川 道弘（㈱インソース）
事例発表		
1	クレーン作業労災ゼロを目指して！	田村 佳明（㈱木村鑄造所 群馬製作所）
2	アサヒフォージ㈱白鳥工場 安全推進活動（STOP 6 の撲滅活動）	谷合 伸展（アサヒフォージ㈱ 白鳥工場）
3	ダイカスト工場のクレーン・玉掛けに関する労災事故事例及び対策	渡辺 洋太郎（リョービ㈱ 静岡工場）
4	クレーン・玉掛け改善事例	蓬田 照久（日本製鋼所 M&E㈱ 室蘭製作所）

(5) 5 団体共催セミナー

（一社）日本ダイカスト協会、（一社）日本鍛造協会、（一社）日本鑄鍛鋼会及び高度ポリテクセンター*の 5 団体合同で、各協会の会員に対して、以下に示す基礎的な研修セミナーを開催した。本会からは延べ 32 名（全体で 66 名）の参加があった。

① 3 次元 C A D を活用したソリッドモデリング技術【SolidWorks】

2022 年 11 月 1 日（火）～ 2 日（水） 1 名（全 3 名）

② モノづくりに必要な切削加工のいろは「旋盤__鋼材編」

2022 年 12 月 13 日（火）～ 14 日（水） 0 名（全 4 名）

③ 生産設備を故障させないための機械保全

2023 年 1 月 18 日（水）～ 19 日（木） 8 名（全 16 名）

④ 一人前に近づく 鋼の熱処理

2023 年 1 月 25 日（水）～ 26 日（木） 4 名（全 13 名）

⑤ 2 次元 C A D による機械製図技術【AutoCAD】

2023 年 1 月 31 日（火）～ 2 月 1 日（水） 1 名（全 6 名）

⑥ DX（デジタルトランスフォーメーション）の進め方

2023 年 2 月 2 日（木）～ 3 日（金） 4 名（全 4 名）

⑦ 工業・製品図面 読み方のポイント ―「図面から製品情報を読むために」―
1 日目（オンライン） 2023 年 2 月 13 日（月）

- 2日目 (オンライン) 2023年2月17日(金)
 3日目 (オンライン) 2023年2月24日(金) 1～3日目
 4日目 (会場) 2023年3月6日(月) 4日目 延べ14名(全20名)
 * (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度職業能力開発促進センター

(6) 鋳造用 3D-CAD 研修会

2022年8月5日(金)～6日(土) 大阪産業創造館 参加者14名

プログラム

コース	内 容	講習時間
2D/3D 標準基礎 教育	・基本操作：メニュー,画面操作,ビュー,座標系 ・基本作図・モデリング：ソリッドモデリング,レイアウト作成,サーフェスの基本 ・編集機能：形状修正,変形,複写・移動 ・便利機能：マスク,断面,計測,マスプロパティ ・各種設定・カスタマイズ	1日目 10:00～17:00
3D 鋳造特有 の操作や 効率的な 運用	・標準基礎教育（復習） ・中間フォーマット取込み ・完品モデルから素材モデルへの展開 ・鋳造方案作成：湯道,押湯,スリーブ,冷金など ・ライブラリ構築：湯道,押湯,スリーブ,冷金等 ・3D-CAD 習得後の応用例の紹介 (コンピュータシミュレーション, 3D プリンタ等)	2日目 9:30～17:00

(7) 第5回省エネセミナー

2022年12月7日(水) 機械振興会館 参加者62名

(公社)日本鋳造工学会、(一社)日本ダイカスト協会の協賛により、昨年同様「鋳造業におけるカーボンニュートラルに向けた取り組み」を副題とし、下記の内容で開催した。

プログラム

演 題		講 演 者
第1部：鋳造工場での省エネ活動		
1	鋳造部門のカーボンニュートラル活動 ～総合力による CO2 原単位改善～	日産自動車(株) 栃木工場 今井 郁夫
2	鋳造で使える省エネ、電気加熱技術のご紹介	中部電力ミライズ(株) 赤坂 千春

3	CO ₂ の回収技術について	太陽日酸(株) 藤田 公
第2部：設備メーカーの取り組み(パネル展示会にて、出展者と交流)		
出展者(9社)：KANAMORI SYSTEM Inc.、草野産業(株)、(株)コヤマ、新東工業(株)、太平洋マシナリー(株)、中部電力ミライズ(株)、富士電機(株)、(株)ナニワ炉機研究所、日本ルツボ(株)		
第3部：生産ラインデータの収集と活用		
4	IoT 技術を活用した省エネ活動	(株)木村鋳造所 沖 寿之
5	お手軽コピペ IoT で無駄を少し減らす話 ～錦正工業における IoT/SDGs の取組～	錦正工業(株) 長島 俊輔
6	鋳造工場における見える化とそのデータ活用	中央可鍛工業(株) 塩満 栄治

2. 国際競争力を発揮できる環境の整備に関する事項

(1) 経営基盤強化に係る政策制度への対応

2022年11月1日に開催された自民党「予算・税制等に関する政策懇談会」において下記の2023年度の予算・税制要望を行った。

【重点項目】

- 取引慣行適正化の推進
- 鉄スクラップ等の原材料・副資材の安定供給
- エネルギーコスト拡大の抑制
 - ①電力、ガス等のエネルギー価格の抑制
 - ②原子力発電の安全性を確保した早期再稼働を含めた安価で安定的なエネルギー供給
 - ③FIT 制度及び FIP 制度における賦課金の抑制
- 温室効果ガス削減に向けた工程表の提供、支援策の拡充
- 中小企業・小規模事業者の設備投資を支援する税制措置の延長

【予算関係】

- ものづくり・商業・サービス補助金、事業再構築補助金等の生産性向上や事業再構築のための補助金制度の存続
- 電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例
- 中小企業に配慮した人材育成等への助成の復活・拡充
- 温室効果ガス削減に向けた工程表の提供、支援策の拡充
- 大学等における鋳造分野の技術習得の専門課程（復活）

【税制関係】

- 中小企業・小規模事業者の設備投資を支援する税制措置の延長
- 地球温暖化対策税の用途拡大や安易な課税拡大の反対

【施策関連要望】

- 特定技能外国人受入れ制度及び外国人技能実習制度の柔軟な運用
- 経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底

(2) 鋳物産業振興議員連盟への要望

自由民主党の鋳物産業振興議員連盟（会長：麻生太郎衆議院議員）の総会に併せて情報交換会を以下のとおりそれぞれ実施し、議員連盟及び経済産業省他官公庁への施策・税制要望並びに情報交換を行った。

<第 22 回鋳物産業振興議員連盟（自由民主党）総会・情報交換会>

2022 年 6 月 14 日（火）：自民党鋳物産業振興議員連盟への要望

I. 重点項目

1. 取引慣行適正化の推進
2. 鉄スクラップ等の原材料・副資材の安定供給
3. エネルギーコスト拡大の抑制
 - (1) 電気、ガス等のエネルギー価格の抑制
 - (2) 原子力発電の安全性を確保した早期再稼働を含めた安価で安定的なエネルギー供給
 - (3) FIT 制度及び FIP 制度における賦課金の抑制
4. 温室効果ガス削減に向けた工程表の提供、支援策の拡充
5. 中小企業・小規模事業者の設備投資を支援する税制措置の延長

II. 施策関連要望

1. 特定技能外国人受入れ制度及び外国人技能実習制度の柔軟な運用
2. 経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底
3. 大学等における鋳造分野の技術習得の専門課程の拡充（復活）

III. 予算・税制要望

1. ものづくり・商業・サービス補助金、事業再構築補助金等の生産性向上や事業再構築のための補助金制度の存続
2. 電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例
3. 中小企業に配慮した人材育成等への助成の復活・拡充
4. 地球温暖化対策税の用途拡大や安易な課税拡大の反対

<鋳物産業振興議員連盟 臨時総会・情報交換会>

急激なエネルギー価格高騰への対策について、11 月 22 日（火）臨時総会を開催し、以下の「エネルギー供給問題等に係る要望」を行った。

1. 電力、ガス等のエネルギー価格の抑制
2. FIT 制度及び FIP 制度における賦課金（再エネ賦課金）の抑制及び再エネ賦課金減免制度の特例措置の導入
 - (1) 再エネ賦課金の抑制
 - (2) 再エネ賦課金減免制度の特例措置の導入
 - ① 再エネ賦課金減免制度の特例措置の導入
 - ② 同減免制度の適用要件の見直し
3. 原子力発電の安全性を確保した早期再稼働を含めた安価で安定的なエネルギー供給

3. 鋳造業の経営改善・振興対策、その他に関する事項

(1) 取引条件適正化の推進

① 素形材産業取引適正化委員会（藤原会長が委員）

2022 年 9 月 12 日～22 日 書面審議にて開催。素形材産業取引ガイドライン及び素形材産業適正取引自主行動計画改訂について審議。

② 中小企業政策審議会中小企業経営支援分科会取引問題小委員会

2023年3月17日に取引問題小委員会が開催され、鈴木副会長・専務理事が参加し、2022年自主行動計画フォローアップ結果を取りまとめ報告した。

- ③ 自動車取引適正化研究会（経産省）（藤原会長が委員）
2022年9月9日～15日 書面審議にて開催。議題である自動車産業取引ガイドライン改訂について、本会から変更案に対する意見を提出。助言、指導の対象が明確化等の内容が盛り込まれた。
- ④ 下請中小企業振興法振興基準の改正（7月29日）の周知とともに、それに基づく素形材ガイドラインならびに素形材産業自主行動計画の改訂について、経営部会、組合代表者会等で周知したほか、「下請取引の適正化について（令和4年11月通達）」を協会ホームページ等で周知徹底し、会員企業の取引慣行適正化を支援した。
- ⑤ 自主行動計画フォローアップ調査
自主行動計画フォローアップ調査（経産省）を会員鑄造企業（受注側・発注側）に対して実施し、調査結果の概要を協会ホームページへの掲載等周知した。
- ⑥ 日本自動車部品工業会と素形材産業8団体との懇談会
2022年11月28日にオンラインにて開催され、柳澤副会長及び鈴木専務理事が参加。自動車部品工業会より取引適正化等に係る取組みを説明し、取引適正化等に向けた意見交換を行った。
- ⑦ 「会長名お願い文書」発行
エネルギー価格ならびに物価高騰、労務費上昇などに対し、2022年12月、会長名の「健全な取引ならびに安定供給に向けたお願い」を発行し、会員企業の取引慣行適正化を支援した。

（2）再生エネルギー固定買取制度（FIT）減免制度への対応

減免基準（製造業平均の8倍）を満たせず、減免措置が認定されない可能性がある企業があることから、同基準算出方法の変更および柔軟な運用について経済産業省に要望し、該当企業を調査の上、一部の企業が同省資源エネルギー庁より算出方法についてアドバイスを受けた。

（3）特定技能外国人制度の柔軟な運用、2号業種指定への取組

特定技能外国人制度に関して、経済産業省のヒアリングを下記のとおり実施し、書類の簡素化等柔軟な運用ならびに素形材（鑄造）分野の特定2号の業種指定等を要望した。

- ① 2022年10月14日（金）会員企業1社現地訪問（愛知県）
- ② 2022年10月24日（月）会員企業1社現地訪問（広島県）
- ③ 2022年11月10日（木）会員企業1社現地訪問（茨城県）
- ④ 2022年12月14日（水）会員企業1社現地訪問（埼玉県）

（4）日本鉄鋼連盟他電力多消費産業（団体）との情報交換会及び国会議員陳情

2022年9月14日にオンラインにて情報交換会が開催され、本会事務局が参加した。また、電力多消費団体の代表者が、電力の安定供給に向けて、国会議員への陳情を行った。以下の日程で本会事務局が参加した。

- ① 2022年10月21日（金）
- ② 2022年10月27日（木）

（5）電気料金等の高騰への対応

電気料金高騰への対応として、会員企業を対象に特別高圧、高圧等の契約状況を把握の上、経済産業省に対し、補助金の創設を要望した。また、11月22日自

民党鋳物議盟臨時会を開催し、同問題について要望した。その他、省エネ支援策パッケージや地方創生臨時交付金を活用した電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金等の政府施策を会員企業に周知徹底した。

(6) コロナからの回復状況の把握と困りごとの収集

市場調査委員会では実施している四半期毎の景況調査において、新たな調査項目として原材料、副資材、エネルギー価格、労務費上昇分の転嫁状況等ならびに困りごと等を収集、確認した。本集計結果は鋳造ジャーナル、協会ホームページ、各種会合等で報告するとともに、市場調査委員会・経営部会において精査・分析の上、政府や鋳物議連等の要望に反映した。

(7) 経済産業省会員企業視察

以下の日程で経済産業省の会員企業への工場視察ならびに情報交換会を実施した。

- ① 2022 年 6 月 2 日（木）～ 3 日（金） 北海道の会員企業 4 社
視察者：素形材産業室
- ② 2022 年 6 月 8 日（水） 岐阜県の会員企業 1 社 視察者：素形材産業室
- ③ 2022 年 7 月 20 日（水） 埼玉県 of 会員企業 2 社
視察者：製造産業局審議官、素形材産業室
- ④ 2022 年 7 月 22 日（金） 埼玉県の会員企業 2 社 視察者：省エネルギー課
- ⑤ 2022 年 9 月 9 日（金） 若手経営者夏季全国大会工場見学会
視察者：素形材産業室
- ⑥ 2022 年 10 月 5 日（水）～ 6 日（木） 広島県・島根県の会員企業 3 社
視察者：素形材産業室
- ⑦ 2022 年 10 月 14 日（金）・24 日（月） 愛知県・広島県の会員企業 2 社
視察者：製造産業局総務課
- ⑧ 2022 年 11 月 10 日（木） 茨城県の会員企業 1 社 視察者：素形材産業室
- ⑨ 2022 年 12 月 14 日（水） 埼玉県の会員企業 1 社 視察者：素形材産業室

4. 同業との連携に関する事項

(1) 量産鋳鉄鋳物委員会（委員長：竹内 英貴）

量産鋳鉄鋳物企業による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に情報交換と機械振興会館・オンラインによる会合を計 4 回開催した。

- ① 第 57 回 2022 年 6 月 8 日（水） ハイブリッド
- ② 第 58 回 2022 年 9 月 21 日（水） ハイブリッド
- ③ 第 59 回 2022 年 12 月 6 日（火） ハイブリッド
- ④ 第 60 回 2023 年 3 月 2 日（木） ハイブリッド

(2) 非量産鋳鉄鋳物委員会（委員長：若林 誠）

非量産鋳鉄鋳物企業による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に 4 回開催した。

- ① 第 42 回 2022 年 6 月 7 日（木） 機械振興会館
- ② 第 43 回 2022 年 9 月 22 日（木） ハイブリッド
- ③ 第 44 回 2022 年 11 月 28 日（月） ハイブリッド
11 月 29 日（火） 工場見学：植田鋳造(株)、戸畑鉄工(株)
- ④ 第 45 回 2023 年 2 月 10 日（金） ハイブリッド

(3) 精密鋳造経営委員会（委員長：今西 寛文）

- ① 第 67 回 2022 年 6 月 24 日（金） 機械振興会館

- ② 第 66 回 2022 年 9 月 2 日 (金) Web
- ③ 第 66 回 2023 年 1 月 27 日 (金) ハイブリッド
- ④ 第 67 回 2023 年 3 月 3 日 (金) ハイブリッド、JUKI 会津(株)工場見学
- (4) 非鉄委員会 (委員長：井上 晃)
 - ① 第 1 回 2022 年 6 月 17 日 (金) 機械振興会館
 - ② 第 2 回 2022 年 12 月 15 日 (木) 機械振興会館
 - ③ 第 3 回 2023 年 3 月 17 日 (金) ハイブリッド
- (5) 軽合金委員会 (委員長：田島 正明)
 - ① 第 1 回 2023 年 3 月 6 日 (月) ハイブリッド
- (6) 非鉄情報交換会
 - ① 第 15 回 2022 年 10 月 20 日 (木) 工場見学 (株)明石合銅)・情報交換会
ホリデイ・イン金沢スカイ 参加者 27 名
工場見学後、参加企業による地域及び業界動向、価格転嫁についての情報交換を行い、協会非鉄関連事業の紹介と報告を併せて実施。

5. 調査研究に関する事項

市場調査委員会 (委員長：武山 尚生) を開催し、景況調査結果による分析、会員企業の困りごとの把握。また、原材料・副資材、エネルギー価格高騰等の状況ならびに対応について審議した。

- ① 第 33 回 2022 年 6 月 2 日 (木) 機械振興会館
- ② 第 34 回 2022 年 9 月 1 日 (木) ハイブリッド
- ③ 第 35 回 2022 年 12 月 5 日 (月) 機械振興会館
- ④ 第 36 回 2023 年 2 月 9 日 (木) ハイブリッド

6. 鑄造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

令和 4 年度予算・税制等要望として、6 月に自由民主党の鑄物産業振興議員連盟、11 月に自由民主党の「予算・税制等に関する政策懇談会」に対して鑄造業界の要望を実施した。また、11 月にエネルギー供給問題等について、自由民主党の鑄物産業振興議員連盟に対して緊急要望を行った。(詳細は、前掲 2. 国際競争力を発揮できる環境の整備」を参照)

7. 中小企業振興に関する事項

(1) 組合代表者会 (委員長：丹羽 龍)

組合代表者会を事務局長会と合同で以下のとおり開催した。

- ① 第 58 回 2022 年 6 月 23 日 (木) 機械振興会館
- ② 第 59 回 2022 年 9 月 15 日 (木) Web
- ③ 第 60 回 2022 年 12 月 8 日 (木) 機械振興会館
- ④ 第 61 回 2022 年 3 月 23 日 (木) 機械振興会館

(2) 組合事務局長会 (委員長：神場 光昭)

上記第 58～61 回の組合代表者会と合同で組合事務局長会 67～71 回を開催し、単独開催を以下のとおり実施した。

- ① 第 69 回 2022 年 11 月 21 日 (月) (単独開催) 名古屋 (ハイブリッド)

(3) 若手経営者委員会 (委員長：吉野 正弘)

若手経営者委員会を 4 回開催し、若手経営者全国大会 (夏・冬) の企画・運営他に関し審議した。

- ① 第 59 回 2022 年 6 月 16 日 (木) ハイブリッド
 - ② 第 60 回 2022 年 8 月 25 日 (木) Web
 - ③ 第 61 回 2022 年 12 月 16 日 (金) ハイブリッド・工場見学 (金沢)
 - ④ 第 62 回 2023 年 3 月 15 日 (水) ハイブリッド
- (4) 組合だよりの発行
組合員を対象に各組合の業況、組合代表者会の議事録・報告内容を掲載した「組合だより」を毎月 (計 12 回) 発行した。

8. 技術開発に関する事項

- (1) キュボラ操業研究委員会 (委員長：米田 博幸)
テーマ：キュボラ溶湯の特性調査,カーボンニュートラル(CN)関連情報の交換
外部講演 (2 回)：第 2 回…藤田 公 (大陽日酸)
第 3 回…田中 裕一 (マツダ)
工場見学 (1 回)：第 4 回にてマツダ(株)本社工場を訪問
- ① 第 1 回 2022 年 6 月 10 日 (金) Web 出席者 10 名
 - ② 第 2 回 2022 年 9 月 14 日 (水) Web 出席者 14 名
 - ③ 第 3 回 2022 年 12 月 15 日 (水) Web 出席者 15 名
 - ④ 第 4 回 2023 年 3 月 14 日 (火) 工場見学 出席者 15 名
- (2) 電気炉操業研究委員会 (委員長：鈴木 敏光)
テーマ：溶解炉の IoT,溶解原単位,溶湯品質,CN への取組などの議題を討議
工場見学 (1 回)：第 4 回にて長野地区 2 工場を訪問
訪問先 (株)高和製作所、(株)コヤマ
- ① 第 1 回 2022 年 6 月 1 日 (水) Web 出席者 24 名
 - ② 第 2 回 2022 年 9 月 9 日 (金) Web 出席者 26 名
 - ③ 第 3 回 2022 年 12 月 2 日 (金) ハイブリッド 出席者 25 名
 - ④ 第 4 回 2023 年 3 月 8 日 (水) 工場見学 出席者 21 名
- (3) 鋳型技術委員会 (委員長：間瀬 和之)
テーマ：鋳物砂、造型システムに関する最新情報の提供及び討議
- ① 第 1 回 2022 年 6 月 15 日 (水) ハイブリッド 出席者 19 名
 - ② 第 2 回 2022 年 9 月 7 日 (水) ハイブリッド 出席者 16 名
 - ③ 第 3 回 2022 年 12 月 16 日 (水) ハイブリッド 出席者 17 名
 - ④ 第 4 回 2023 年 3 月 1 日 (水) ハイブリッド 出席者 13 名
- 小 Gr での活動：JACT 試験法改正のため、全体打合せを 4 回開催。
- ① 第 1 回 2022 年 6 月 8 日 (水) Web 出席者 5 名
 - ② 第 2 回 2022 年 9 月 7 日 (水) ハイブリッド 出席者 5 名
 - ③ 第 3 回 2022 年 12 月 16 日 (金) ハイブリッド 出席者 4 名
 - ④ 第 4 回 2023 年 3 月 1 日 (水) ハイブリッド 出席者 4 名
 - ⑤ 第 5 回 2023 年 3 月 23 日 (木) Web 出席者 3 名
- (4) 精密鋳造技術委員会 (委員長：登 勇氣)
テーマ：精密鋳造用 3D ワックス模型の適用検討、海外技術情報の交換、他 (公社) 日本鋳造工学会精密鋳造研究部会との共同開催で実施した。
() 内は鋳造協会委員数
- ① 第 1 回 2022 年 5 月 25 日 (水) Web 出席者 21 名 (9 名)
 - ② 第 2 回 2022 年 9 月 7 日 (水) Web 出席者 15 名 (7 名)
 - ③ 第 3 回 2022 年 11 月 24 日 (木) ハイブリッド 出席者 23 名 (10 名)
 - ④ 第 4 回 2023 年 2 月 15 日 (水) ハイブリッド 出席者 22 名 (7 名)

(5) 銅合金技術委員会（委員長：丸山 徹（関西大学））

テーマ：金型分科会(青銅合金の金型 casting)、標準化分科会、及び JIS 分科会
(JIS H 5120CAC400 系及び CAC500 系鋳物への Bi,S の影響の調査)他

- ① JIS 分科会 2022 年 4 月 20 日 (金) Web 出席者 10 名
- ② JIS 分科会 2022 年 5 月 18 日 (水) Web 出席者 10 名
- ③ 第 1 回 2022 年 6 月 22 日 (水) Web 出席者 28 名
- ④ JIS 分科会(実験) 2022 年 8 月 3 日(水)～4 日(木)
於 J マテ・カップ・プロダクツ(株) 出席者 7 名
- ⑤ 第 2 回 2022 年 9 月 21 日 (水) Web 出席者 26 名
- ⑥ 金型分科会(実験) 2022 年 11 月 14 日(月) ～ 15 日(火)
於 (株)明石合銅 出席者 7 名
- ⑦ JIS 分科会(まとめ) 2022 年 11 月 24 日(木) Web 出席者 9 名
- ⑧ 第 3 回 2022 年 12 月 23 日 (金) ハイブリッド 出席者 28 名
- ⑨ 第 4 回 2023 年 3 月 15 日 (水) ハイブリッド 出席者 32 名

9. 環境に関する事項

(1) エネルギー削減委員会（委員長：守田 有道）

（カーボンニュートラル特別委員会 WG1 と共同開催）

- ① 第 1 回 2022 年 6 月 29 日 (水) ハイブリッド 出席者 13 名
- ② 第 2 回 2022 年 9 月 26 日 (月) ハイブリッド 出席者 12 名
- ③ 臨時 2022 年 11 月 29 日 (火) Web 出席者 9 名
- ④ 第 3 回 2023 年 1 月 25 日 (水) Web 出席者 10 名
- ⑤ 第 4 回 2023 年 3 月 10 日 (金) Web 出席者 9 名

10. 指導・教育・人材育成に関する事項

(1) 人材育成特別委員会

- ① 第 1 回 2022 年 9 月 27 日 (火) Web

(2) 鋳造カレッジ企画運営委員会

（日本鋳造工学会の人材育成委員会と鋳造カレッジ合同委員会を運営）

2022 年度鋳造技士認定及び鋳造カレッジ受講者選定の審議にあたっては、書面会議を実施。

- ① 第 36 回 2023 年 3 月 13 日 (月) ハイブリッド
2023 年度鋳造カレッジ開催方針審議

(3) 鋳造カレッジ現地責任者会議

- ① 2022 年 6 月 22 日 (水) Web 鋳造カレッジ現地責任者会議
- ② 2022 年 12 月 19 日 (月) ハイブリッド 鋳造カレッジ現地責任者会議
- ③ 2023 年 2 月 6 日 (月) Web 鋳造カレッジ現地責任者会議

(4) 上級カレッジ委員会

- ① 第 1 回 2022 年 12 月 13 日 (火) Web 出席者 11 名
- ② 第 2 回 2023 年 2 月 18 日 (土) 機械振興会館 出席者 10 名

(5) 新人教育研修プログラム委員会

- ① 第 1 回 2022 年 10 月 3 日 (月) Web 出席者 9 名
- ② カリキュラム検討 WG 2022 年 10 月 6 日 (木) Web 出席者 5 名
- ③ 第 2 回 2023 年 2 月 20 日 (月) 機械振興会館 出席者 9 名

(6) 2022 年度鋳造カレッジは Web 講義及び地区共通 Web 講義を全国的に一部導入し、関東、関西地区にて開催。なお、上級コースは一部 Web 講義を導入し、3

年振りの開講となった。また、鋳造入門講座も一部 Web 講義を導入し実施した。

- 1) 2022 年 6 月 2 日 (木) ~ 4 日 (土) 上級コース開講式 機械振興会館・Web 講義
- 2) 2022 年 6 月 6 日 (月) ~ 10 日 (金) 2021 鋳造カレッジ軽合金インターンシップ
- 3) 2022 年 6 月 7 日 (火) ~ 11 日 (土) 2021 鋳造カレッジ銅合金インターンシップ
- 4) 2022 年 6 月 16 日 (木) ~ 18 日 (土) 入門講座 2021 修了生特別講演・現地研修
- 5) 2022 年 6 月 24 日 (金) 入門講座開講式
- 6) 2022 年 6 月 25 日 (土) 入門講座
- 7) 2022 年 7 月 7 日 (木) ~ 9 日 (土) 上級コース(広島)
- 8) 2022 年 7 月 8 日 (金) 鋳造カレッジ関西地区開講式
- 9) 2022 年 7 月 9 日 (土) 鋳造カレッジ関東地区開講式・鋳造カレッジ関西地区
- 10) 2022 年 7 月 21 日 (木) ~ 22 日 (金) 鋳造カレッジ 軽合金・銅合金コース Web
- 11) 2022 年 7 月 22 日 (金) ~ 23 日 (土) 入門講座 Web
- 12) 2022 年 7 月 23 日 (土) 鋳造カレッジ 関東地区
- 13) 2022 年 8 月 5 日 (金) 鋳造カレッジ (関東・関西共通) Web
- 14) 2022 年 8 月 26 日 (金) 鋳造カレッジ (関東・関西共通) Web
- 15) 2022 年 8 月 26 日 (木) ~ 27 日 (土) 入門講座 Web
- 16) 2022 年 9 月 1 日 (木) ~ 3 日 (土) 上級コース Web
- 17) 2022 年 9 月 5 日 (月) ~ 9 日 (金) 鋳造カレッジ関東地区インターンシップ
- 18) 2022 年 9 月 8 日 (木) ~ 9 日 (金) 鋳造カレッジ 軽合金・銅合金コース Web
- 19) 2022 年 9 月 12 日 (月) ~ 16 日 (金) 2021 鋳造カレッジ関東地区インターンシップ
- 20) 2022 年 9 月 19 日 (月) ~ 23 日 (金) 2021 鋳造カレッジ鋳鋼インターンシップ
- 21) 2022 年 9 月 22 日 (木) 鋳造カレッジ (関東・関西共通) Web
- 22) 2022 年 9 月 30 日 (金) ~ 10 月 1 日 (土) 入門講座 Web
- 23) 2022 年 10 月 7 日 (金) 鋳造カレッジ (関東・関西共通) Web
- 24) 2022 年 10 月 13 日 (木) ~ 15 日 (土) 上級コース
- 25) 2022 年 10 月 21 日 (金) 鋳造カレッジ (関東・関西) Web
- 26) 2022 年 10 月 27 日 (木) ~ 28 日 (金) 入門講座
- 27) 2022 年 10 月 29 日 (土) 入門講座 ハイブリッド
- 28) 2022 年 11 月 4 日 (金) 鋳造カレッジ (関西)
- 29) 2022 年 11 月 5 日 (土) 鋳造カレッジ (関東・関西)
- 30) 2022 年 11 月 17 日 (木) ~ 19 日 (土) 上級コース
- 31) 2022 年 10 月 21 日 (金) 鋳造カレッジ (関東・関西) Web
- 33) 2022 年 12 月 2 日 (金) ~ 3 日 (金) 入門講座・修了式
- 34) 2022 年 12 月 2 日 (金) 鋳造カレッジ (関西)
- 35) 2022 年 12 月 3 日 (土) 鋳造カレッジ (関東・関西)

- 36) 2022 年 12 月 10 日 (土) 鑄造カレッジ (関西) Web
- 37) 2023 年 1 月 13 日 (金) ~ 14 日 (土) 上級コース Web
- 38) 2023 年 1 月 23 日 (月) ~ 27 日 (金) 鑄造カレッジ関西地区インターンシップ
- 39) 2023 年 2 月 3 日 (金) ~ 4 日 (土) 鑄造カレッジ (関東工場見学)
- 40) 2023 年 2 月 13 日 (月) ~ 17 日 (金) 鑄造カレッジ銅合金インターンシップ
- 41) 2023 年 2 月 16 日 (木) ~ 18 日 (土) 上級コース・修了式
- (7) 日本鑄造工学会意見交換会
2022 年 8 月 18 日 (木)
- (8) 鑄造技術研修会
 - ① 鑄鉄第 1 回 2022 年 7 月 1 日 (金)「築炉・溶解」Web 41 名参加
 - ② 鑄鉄第 2 回 2022 年 7 月 29 日 (金)「砂型・品質保証」Web 43 名参加
 - ③ 鑄鉄第 3 回 2022 年 8 月 25 日 (金)「方案・欠陥」Web 66 名参加
 - ④ 鑄鉄第 4 回 2023 年 2 月 10 日 (金)「方案・欠陥」Web 43 名参加
 - ⑤ 鑄鉄第 5 回 2023 年 2 月 27 日 (月)「築炉・溶解」Web 40 名参加
- (9) 鑄造製造現場の Q&A 集改訂編集委員会
2023 年 3 月 24 日 (金)

1 1. 鑄造技士会活動に関する事項

鑄造カレッジを一定の成績で終了した受講生に対する協会認定制度「鑄造技士 (Foundry Expert)」は、2022 年度で 1,209 名を認定するに至った。この鑄造技士の技術のさらなる向上とネットワークを維持強化するための組織として、鑄造カレッジの 7 つの開催地区ごとに鑄造技士会を設立している。2022 年度の各地区鑄造技士会活動は新型コロナウイルス感染症影響により東海技士会のみとなった。

東海鑄造技士会 2023 年 2 月 10 日 (金) 工場見学、意見交換会、交流会を実施。

1 2. 標準化に関する事項

(1) 標準化委員会 (委員長：清水 一道 (室蘭工業大学))

JIS 及び ISO に関する審議を行った。

1)「JIS G 5503 オーステンパ球状黒鉛鑄鉄品」改正原案を作成し、日本規格協会に納品した。

(分科会)

- ① 第 10 回 2022 年 4 月 13 日 (月) Web 出席者 5 名
- ② 第 11 回 2022 年 5 月 27 日 (金) Web 出席者 7 名
- ③ 第 12 回 2022 年 6 月 7 日 (火) Web 出席者 7 名
- ④ 第 13 回 2022 年 7 月 28 日 (火) Web 出席者 6 名

(委員会)

- ⑤ 第 1 回 2022 年 5 月 10 日 (火) Web 出席者 15 名
- ⑥ 第 2 回 2022 年 6 月 18 日 (土) ~ 30 日 (水)
(メール委員会) 出席者 15 名
- ⑦ 第 3 回 2022 年 8 月 19 日 (金) ~ 30 日 (火)
(メール委員会) 出席者 15 名

2)「新 JIS 耐摩耗鑄鉄品」原案作成 (新 JIS 原案作成準備委員会)

- ①第5回 2022年 4月 18日(月) Web 出席者 9名
- ②第6回 2022年 6月 8日(水) Web 出席者 8名
- ③第7回 2022年 7月 8日(木) Web 出席者 6名
- ④臨時 2022年 11月 11日(月) 於 久留米高専
出席者 3名(久留米高専 山本先生含む)
- ⑤第8回 2023年 2月 9日(木) Web 出席者 11名

3) 「JIS G 5903 鋳鉄製又は鋳鋼製のショット及びグリット」改正原案作成 (準備委員会)

- ①第3回 2022年 7月 19日(金) 機械振興会館 出席者 7名
- ②臨時 2022年 10月 11日(火) Web 出席者 3名(他3名)
(日本防錆協会との調整会議)
- ③臨時 2022年 10月 26日(水) Web 出席者 3名(他4名)
(経済産業省 国際標準課との調整)
- ④臨時 2022年 11月 1日(火) Web 出席者 3名(他3名)
(日本防錆協会との調整会議：10月26日の結果を報告)

4) 「JIS G 5502 球状黒鉛鋳鉄品」改正原案(追補による改定検討)

- ①準備委員会 2022年 9月 5日(月) Web 出席者 6名
- ②ヒアリング 2022年 10月 26日(水) Web 事務局から1名
- ③第1回分科会 2022年 11月 30日(水) Web 出席者 7名
- ④第2回分科会 2023年 1月 11日(水) Web 出席者 6名
- ⑤ヒアリング 2023年 1月 20日(水) Web 事務局から1名
- ⑥第3回分科会 2023年 2月 10日(金) Web 出席者 7名
- ⑦第1回委員会 2023年 3月 17日(金) Web 出席者 11名

(2) ISO/TC25 国内審議委員会(委員長：浅野 和典(近畿大学))

ISO/TC25 の規格改定等に関する審議を行った。

- ① ISO 16112:2017(Ed2)の5年毎の改定確認投票(SR)
規格名 Compacted (vermicular) graphite cast irons — Classification
依頼日 2022年 1月 15日、投票日 2022年 6月 1日
対応 JIS 規格 … JIS G 5505:2020 CV 黒鉛鋳鉄
国内審議委員会で検討した G 5505 改定内容 18 か所を修正提案し投票。
⇒ TC25 の最終決定は確認(Confirm)。修正提案は次回改定にて議論。
- ② ISO_9147_1987_ed.1(銑鉄)のSR投票(依頼日 2022年 6月)
メール審議：2022年 6月～10月に、国内審議委員及び関連協会に意見照会の上、2022年 11月に確認(Confirm)で電子投票済。
⇒ TC25 の最終決定は、確認(Confirm)となった。
- ③ 第34回 ISO / TC 25 鋳鉄&銑鉄の全体会議
国内審議委員会：2021年 11月 28日(月) Web 出席者 6名
国際会議：2022年 11月 30日(水) オンライン形式(ロンドン)
日本より浅野委員長、吉沢(事務局)、他1名が参加
*) TC261/JG77 との Liaison 提案あり。来年以降の会議に前記情報提供
国内審議委員会(国際会議報告)：2022年 12月 22日(木)～2023年 1月 13日(金) 参加者 10名(メール会議)。

- ④ WG16 : ISO/DTR 10809-1(2022) (Cast irons—Part 1: Materials and properties for design) への第 3 回電子投票
国内審議委員会 (2022 年 11 月 28 日(月)) にて、「Confirm (球状黒鉛鋳鉄品の種類の記号のみ修正)」回答を確認、2023 年 1 月 6 日に事務局が投票。
他団体主催 ISO 国内審議委員会への参加

① ISO/TC213 国内審議委員会 (主催：(一財) 日本規格協会)

ISO/TC213 グループ A 国内委員会 (幾何公差の横断的調査の関連 WG、2022 年 1 月よりオブザーバ参加)

- 1) ISO 1660:2017 (Ed 3) 幾何学的製品仕様 (GPS) — 幾何学的公差 — プロファイル公差
- 2) ISO 1101:2017 (Ed 4) 幾何学的製品仕様 (GPS) — 幾何学的公差 — 形状、方向、位置、及び振れの公差

ISO/TC213 グループ A JIS 素案作成準備委員会(オブザーバ参加)

2022 年 5 月 17 日(金) ISO/TC213 グループ A JIS 素案作成準備委員会

2022 年 10 月 18 日(火) ISO/TC213 グループ A 国内審議委員会(Web)

2023 年 2 月 24 日(金) ISO/TC213 グループ A 国内審議委員会(Web)

② ISO/TC261 国内審議委員会 (主催：TRAFAM)

AM(Additive Manufacturing)砂型の ISO 規格制定コアメンバ、本年度から ISO/TC261/JG77 が TC25 の Liaison 先となったことから、情報収集の目的で参加。

2022 年 7 月 1 日 (金) ハイブリッド(会場で参加:兵庫工業技術センター)

2022 年 12 月 14 日 (金) ハイブリッド(会場で参加:産総研東つくば事業所)

2023 年 2 月 13 日 (月) ハイブリッド(Web で参加)

2023 年 3 月 16 日 (木) Web で参加 (TC261/JG77 国際委員会に参加)

③ ISO/TMB/SAG_Critical Minerals 国内委員会への参加

重要鉱物に係る戦略的諮問委員会(SAG) (2023 年 6 月までの予定) 日本から参加のエキスパートの報告会に延べ 2 回参加。

(3) ISO/TC306 国内審議委員会 (委員長：平田 実)

- 1 3. 設備・原材料等に関する事項に記載

1 3. 設備・原材料等に関する事項

(1) ISO/TC306 国内審議委員会 (委員長：平田 実)

ISO/TC306 (鑄造機械規格) の国際規格制定等に関する審議を行った。

① 2022 年 4 月 4 日 (月) ISO/TC306 国内審議委員会 Web

② 2022 年 6 月 17 日 (金) ISO/TC306 国内審議委員会 Web

(2) ISO/TC306 国際会議

① 2022 年 4 月 6 日 (水) ISO/TC306 WG4 国際会議 Web

② 2022 年 10 月 13 日 (木)・21 日 (金) ISO/TC306 WG4 国際会議 Web

③ 2022 年 12 月 1 日 (木) ISO/TC306 総会国際会議 Web

1 4. 国際交流に関する事項

(1) 国際会議・海外セミナー等への参加

① 海外協会との交流

2022 年 6 月 8 日 (水) AFA オンライン国際会議 Web

2022 年 10 月 16 日 (日) ～ 10 月 20 日 (木) WFC 釜山大会
(オンライン参加)

② 世界精密鑄造会議（WCIC）、国際精密鑄造セミナー（ISIC）等精密鑄造関係

1) 2022 年 7 月 11 日（月）

第 5 回 WCIC/ISIC 実行委員会 ハイブリッド

2) 2022 年 10 月 4 日（火）

第 5 回精密鑄造国際委員会・第 6 回 WCIC/ISIC 実行委員会

ハイブリッド

3) 2023 年 2 月 2 日（木）

第 7 回 WCIC/ISIC 実行委員会 大同特殊鋼 健康保険組合保養所

4) 2023 年 3 月 7 日（火）

第 6 回精密鑄造国際委員会・第 8 回 WCIC/ISIC 実行委員会

神戸コンベンションセンター

③ YPP（Young Professional Program）委員会

1) 2022 年 6 月 15 日（水）ハイブリッド国内委員会

2) 2022 年 9 月 27 日（火）Web 国内委員会

3) 2022 年 11 月 2 日（水）Web 日米独オンラインミーティング

4) 2022 年 11 月 9 日（水）Web 国内委員会

5) 2023 年 3 月 8 日（水）大和重工 国内委員会

④ GIFA2023 工場見学設定への先行活動

⑤ 海外協会との交流

1) スペイン鑄造協会 オンラインミーティング

1 5. 労働安全衛生に関する事項

鑄造業における安全衛生対策の推進のため、リスクアセスメントの普及活動として、4 団体合同で研修会を開催した（詳細は、前掲「1.（4）安全衛生対策セミナー」を参照）。

1 6. 表彰に関する事項

（1）協会賞の募集・選考・表彰

日本鑄造協会の協会賞として、2021 年 12 月に協会功労賞、経営改善賞、技術賞、技術開発賞の募集を行い、3 月に選考を行った。

また、2021（令和 3）年度に決定した下記受賞者の表彰式を 2022 年 5 月の春季大会において行い、表彰状・記念品等を贈呈した。

【協会功労賞】

稲田 浩樹（コマツ）

重親 守（島根県鋳鉄鑄物工業組合）

澤田 正治（アイシン高丘㈱）

谷口 仁志（愛知県鑄物工業協同組合）

平野 喜嗣（三重県鑄物工業協同組合）

廣瀬 萌（ヒロセ合金㈱）

望月 英克（㈱スギヤマ）

湯川 善晴（和歌山県鑄物工業協同組合）

【技術開発賞】

北岡 大輔（虹技㈱）

【技術賞】

黒川 豊（㈱ツチヨシ産業）

17. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

- (1) 機関誌「鑄造ジャーナル」の発行
編集委員会を毎月開催し、機関誌「鑄造ジャーナル」を発行。毎月・年 12 回発行した。また、協会ホームページに鑄造ジャーナルの目次を掲載した。
- (2) 協会ホームページによる情報提供
協会ホームページの会員専用ページと E メールを活用し、各種情報の迅速な提供を行い情報発信の強化を行った。
- (3) 最近の鑄造業界動向の発行
本会の四半期調査、毎月調査及び鑄造に関連する公的統計から鑄造業界に関する動向をまとめた「最近の鑄造業界動向」を毎月計 12 回発行した。
- (4) その他広報事業
 - ① 新聞・雑誌等に業界 PR 記事の提供
報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専門紙の担当記者へのプレスリリースを行い、資料の提供等取材に協力した。
 - ② 需要業界における各種調査研究資料の収集と提供を行った。
 - ③ 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供を行った。
 - ④ その他、業界発展のための広報・情報活動を行った。
- (5) 普及啓蒙事業
 - ① 経営、技術及び海外情報に関する相談業務
 - ② 新技術開発・新製品開発に関する紹介
- (6) その他情報の提供
 - ① 法律、制度、経営、技術及び労働に関する情報の提供
 - ② 会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供
 - ③ 内外の関係情報の提供

18. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

- (1) 経営、技術、労務関係、教育図書及び文献及び視聴覚教育資料の斡旋
- (2) 工場視察及び見学会の斡旋
- (3) 記念行事、催物における表彰状若しくは感謝状の授与
- (4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

19. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

VII. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

1. 東海支部

支部総会を、2022 年 4 月 14 日（木）Web 会議（愛知県産業労働センター）にて、支部役員会を 2022 年 4 月 14 日（木）Web 会議（愛知県産業労働センター）、2023 年 2 月 10 日（金）に愛知県産業労働センター（+Web）にて開催した。

講演会は 2022 年 4 月 14 日（木）、Web（愛知県産業労働センター）にて、役員工場見学（特別開催）を 2023 年 2 月 10 日（金）日本製鉄 名古屋製鉄所にて開催し、技術講習会は現地+Web にて 4 回協賛した。

2. 北陸支部

支部総会を、2022年4月12日(火)～21日(木)の期間でメール審議にて開催し、支部役員会を、2023年2月15日(水)金沢市にて開催した。

また、日本鑄造工学会北陸支部と共催で、技術講演会を2022年6月10日(金)(WEB)、鑄造初級講座を2022年7月28日(木)～7月29日(金)(石川県地場産業振興センター)、現場改善事例発表会を2022年9月16日(金)(Web)、鑄造技術講座を2022年11月24日(木)(ポリテクセンター富山)にて開催した。

3. 中国四国支部

支部総会を、2022年4月7日(木)(センチュリーホテル21広島)対面で開催し、中小企業庁取引課長が講師となり「下請等中小企業の取引条件改善への取組について」講演会を実施した。

支部理事会を第1回 2022年4月7日(木)(センチュリーホテル21広島)、第2回 2022年8月4日(木)(広島県鑄物工業協同組合 会議室)、第3回 2022年11月25日(木)(福山ニューキャッスルホテル)、第4回 2023年2月16日(木)(広島県鑄物工業協同組合 会議室)何れも対面で開催した。

秋季講演会を2022年11月25日(木)(福山ニューキャッスルホテル)対面で開催した。内容は(1)「電力事業を取り巻く情勢について」講師：中国電力㈱、(2)「福山築城400年の歩み」講師：広島県立文書館

VIII. 関係官庁への協力に関する事項

1. 適正取引推進のための各種委員会への委員推薦・出席

- (1) 素形材産業取引適正化委員会(藤原会長が委員)
 - ・2022年9月12日～22日 書面審議
- (2) 自動車取引適正化研究会(経産省)(藤原会長が委員)
 - ・2022年9月9日～15日 書面審議

2. 中央技能検定委員の推薦

「鑄造(鑄鉄鑄物鑄造作業)」「鑄造(鑄鋼鑄物鑄造作業)」「金属溶解(鑄鉄溶解作業)」「基礎級 鑄造(非鉄金属鑄物鑄造作業)」「鑄造(非鉄金属鑄物鑄造作業)」及び「金属溶解(軽合金溶解炉溶解作業)」について委員を推薦した。

3. 「中小企業経営強化法」関連の証明書発行

中小企業等経営強化法の設備に係る仕様等証明書の発行を行った(63件)

IX. 関係団体との交流に関する事項

1. 素形材関連団体連絡会

素形材に関する交流促進や普及啓発を議論し実施する場として、(一財)素形材センターが主催する素形材団体交流委員会に鈴木専務理事が委員として出席した。

2. 素形材産業優良従業員表彰委員会

(一財)素形材センターが主催する素形材産業優良従業員表彰委員会に、鈴木専務理事が委員として出席した。

3. 鋳物関連団体への協力

- (1) (公社) 日本鋳造工学会の講演大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。
- (2) (一財) 素形材センターの素形材月間事業 (11 月) への後援。
- (3) 島根県鋳造関連産業振興協議会総会 (6 月 28 日・松江市) に藤原会長及び鈴木専務理事が出席し、本会の活動概要等を報告。

X. 会員及び組織に関する事項

1. 組織拡充強化に関する事項

- (1) 未加入の企業、組合の正会員の加入を促進した。(1 社加入)
- (2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。(3 社加入)

2. 会員及び組織に関する事項

- (1) 正会員及び賛助会員 (2023 年 3 月 31 日現在)
 - ① 法人正会員 335 社
 - ② 団体正会員 32 組合 (452 社)
 - ③ 賛助会員 49 社
- (2) 理事・監事・協会役員・顧問・参与名簿 (別紙 1 参照)
- (3) 協会事業運営組織図 (別紙 2 参照)
- (4) 部会委員・支部長名簿 (別紙 3 参照)
- (5) 協会事務局組織図 (別紙 4 参照)
- (6) 協会活動状況一覧表 (別紙 5 参照)